A decorative graphic on the left side of the slide, composed of several overlapping squares in various shades of blue and purple, arranged in a stepped, staircase-like pattern.

2012年3月期 第1四半期 決算概要

2011年8月

稲畑産業株式会社

2012年3月期 第1四半期 決算総括

<ポイント>

- ❑ 売上高は、主力の情報電子事業や合成樹脂事業を中心に、堅調に推移し、対前年同期比 1.0%増の1,168億円
- ❑ 営業利益は、減価償却費等の販売管理費の増加により、対前年同期比 29.0%減の17億円
- ❑ 経常利益は、営業利益の減少に伴い、対前年同期比 30.5%減の20億円
- ❑ 純利益は、対前年同期比 66.1%減の12億円
⇒2011年度第1四半期に關係会社売却益 31億円を計上

連結	2011年度 第1四半期	2012年度 第1四半期	前年同期比
売上高	1,157億円	1,168億円	1.0%
営業利益	25億円	17億円	△29.0%
経常利益	28億円	20億円	△30.5%
四半期純利益	37億円	12億円	△66.1%
1株当り 四半期純利益	57円84銭	19円64銭	

2012年3月期 第1四半期 B/S

①手許流動性の圧縮により現金及び預金の減少

②受取手形及び売掛金、棚卸資産の増加

単位:百万円

(資産の部)	11/03	11/06	増減	(負債／純資産の部)	11/03	11/06	増減
現金及び預金	16,559	9,676	△6,883	支払手形及び買掛金	86,040	85,037	△1,002
受取手形及び売掛金	126,041	129,457	3,415	短期借入金	45,344	47,085	1,741
棚卸資産	29,578	32,513	2,934	その他流動負債	9,810	7,382	△2,428
その他流動資産	5,611	5,316	△294	長期借入金	15,184	15,133	△51
有形固定資産	9,946	10,030	83	その他固定負債	9,851	10,101	250
無形固定資産	6,559	6,425	△134	株主資本	63,353	63,395	41
投資有価証券	38,529	38,608	79	その他の包括利益累計額	7,986	8,635	649
その他固定資産	5,445	5,416	△28	その他純資産	700	672	△27
資産合計	238,272	237,444	△828	負債純資産合計	238,272	237,444	△828

2012年3月期 第1四半期 事業セグメント別売上高

情報電子 ⇒ 対前年同期比 Δ4.2% 20億円減

- ✓ 液晶関連は、偏光板・拡散板等の関連部材及び偏光板原料が低調
- ✓ 複写機関連は、電力供給問題に対応した生産前倒し等により増加傾向
- ✓ 半導体関連は、震災の影響により取引先で在庫積み増しの動きがあり伸長
- ✓ 装置関連は、中国向けLED関連装置の新規受注等により堅調に推移

化学品 ⇒ 対前年同期比 +0.2% 3千万円増

- ✓ 機能化学品関連では、シリコン関連ビジネスが震災の影響により減少
- ✓ インキ関連は、関連会社で生産するニトロセルロースの販売が伸長
- ✓ ライフサイエンス関連では、医農薬ビジネスが順調に推移
- ✓ 昨年からスタートした太陽電池関連ビジネスは伸長
- ✓ 生活環境関連は、暑さ対策用冷却商品ビジネスなどが伸長

合成樹脂 ⇒ 対前年同期比 +6.5% 26億円増

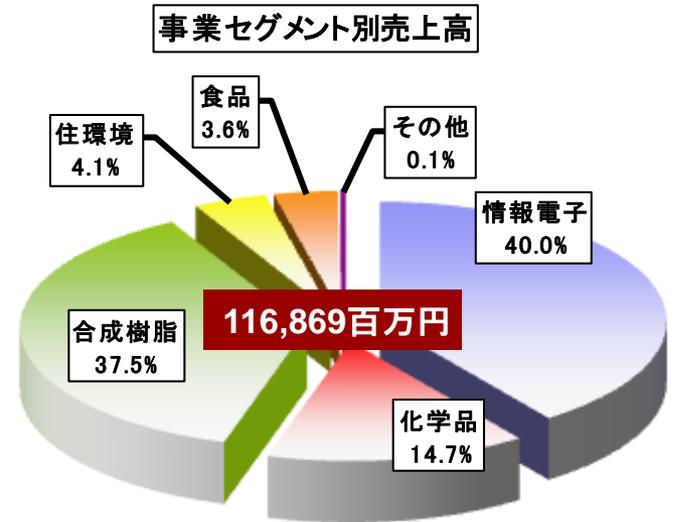
- ✓ 高機能樹脂は、震災の影響により、自動車分野向け材料販売が国内向け、輸出ともに低迷
- ✓ 国内の汎用樹脂の販売は、ナフサ高を背景とした値上げによる仮需等により伸長
- ✓ フィルム、シート関連は、食品、雑貨用途を中心に順調に推移
- ✓ 海外ではベトナム、インドネシアへの販売が伸長

住環境 ⇒ 対前年同期比 +3.2% 1億円増

- ✓ 住宅建材関連は、震災の影響が出たものの、代替商品の荷動きが活発であったこと等により、対前期比若干の増加
- ✓ 環境資材関連は、震災により住宅設備機器メーカーへの原材料納入が減少したものの、新規販売が順調に推移したことから前年並み

食品 ⇒ 対前年同期比 +11.8% 4億円増

- ✓ 水産物では、大手回転ずしチェーン向けにすしエビが伸長したものの、品質問題への対応のため収益面では苦戦
- ✓ 農産物では、主力のブルーベリーは堅調に推移
- ✓ 北米の水産子会社の業績は好調に推移



2012年3月期 第1四半期		
	売上高(百万円)	前年同期比(%)
情報電子	46,755	Δ4.2
化学品	17,118	0.2
合成樹脂	43,861	6.5
住環境	4,809	3.2
食品	4,190	11.8
その他	132	Δ38.8
合計	116,869	1.0

2012年3月期 第1四半期 事業セグメント別営業利益

情報電子 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 32.8\%$ 2億円減

- ✓ 世界的な液晶テレビ市場の需要の落ち込みによる売上減少に
くわえ、販売管理費が増加したこと等により減少

化学品 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 17.8\%$ 1億円減

- ✓ ライフサイエンス関連が伸長し、トータルでは順調に推移したものの、
前期に計上したアイケイファーマシー(株)(前期1Qに売却)の営業利益が
なくなったこと等により減少

合成樹脂 ⇒ 対前年同期比 $\Delta 39.2\%$ 3億円減

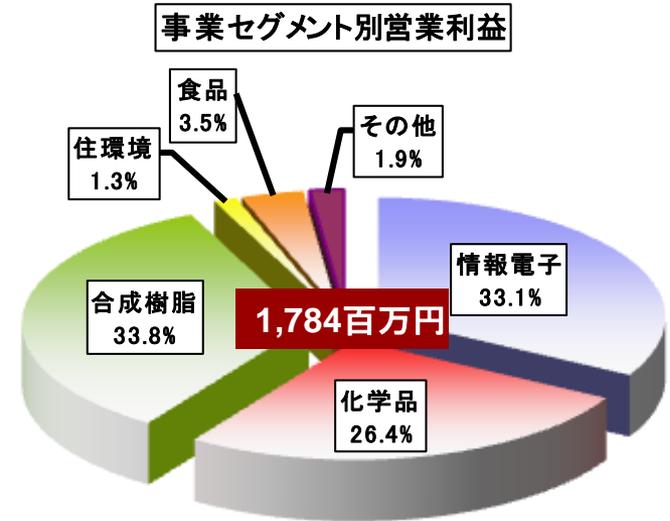
- ✓ 東南アジアを中心に売上高は伸長したものの、
前期に計上した在庫評価引当金戻入益の減少や、
販売管理費が増加したこと等により減少

住環境 ⇒ 対前年同期比 $+29.6\%$ 5百万円増

- ✓ 震災被害を受けた建材メーカー等への原材料納入が一時
ストップした一方、仮設住宅向け需要や代替商品需要があり、
全体としては堅調

食品 ⇒ 対前年同期比 6千万円増

- ✓ 北米の水産子会社が好調に推移



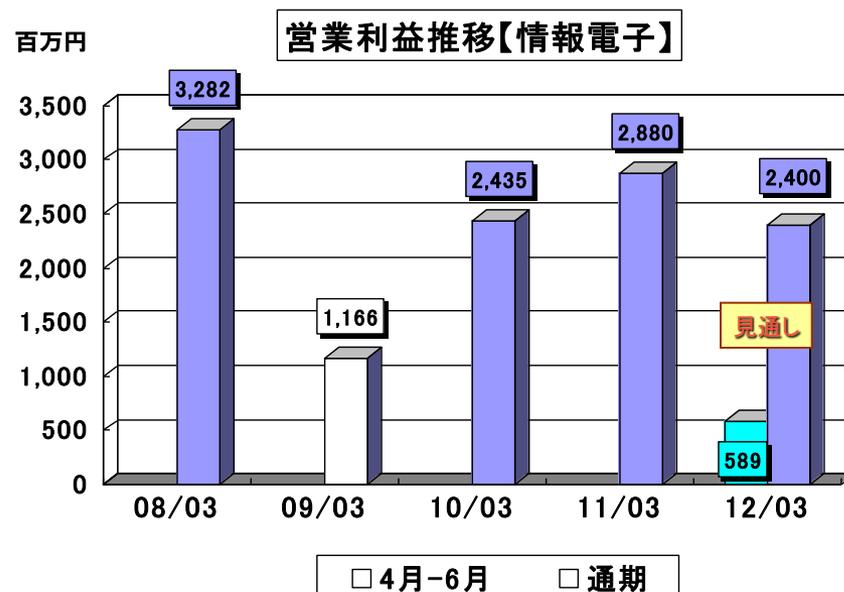
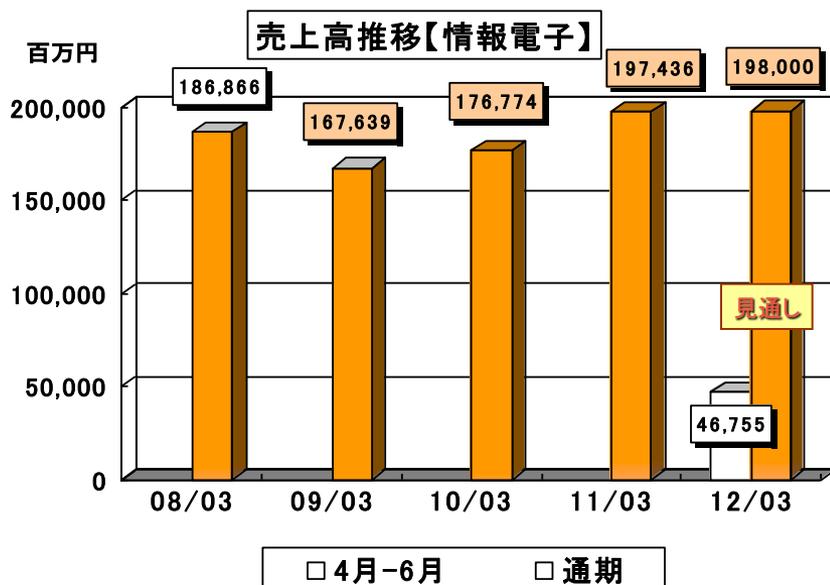
2012年3月期 第1四半期		
	営業利益(百万円)	前年同期比(%)
情報電子	589	$\Delta 32.8$
化学品	470	$\Delta 17.8$
合成樹脂	603	$\Delta 39.2$
住環境	23	29.6
食品	63	—
その他	34	$\Delta 38.5$
合計	1,784	$\Delta 29.0$

※前年同期 食品 $\Delta 4$

2012年3月期 第1四半期 主要事業の個別概況(情報電子)

売上高 対前年同期比 $\Delta 4.2\%$ 20億円減少

- ▶ 液晶関連では、世界的な液晶テレビ市場の需要の落ち込みを受け、偏光板・拡散板等の関連部材及び偏光板原料が低調
- ▶ 複写機関連では、電力供給問題に対応して取引先による生産の前倒し等により増加傾向。インクジェット関連は堅調。
- ▶ 半導体関連では、関連部材につき、震災の影響により取引先で在庫積み増しの動きがあり、伸長
- ▶ 装置関連では、中国向けのLED関連装置の新規受注やスマートフォン関連装置の好調もあり、堅調に推移

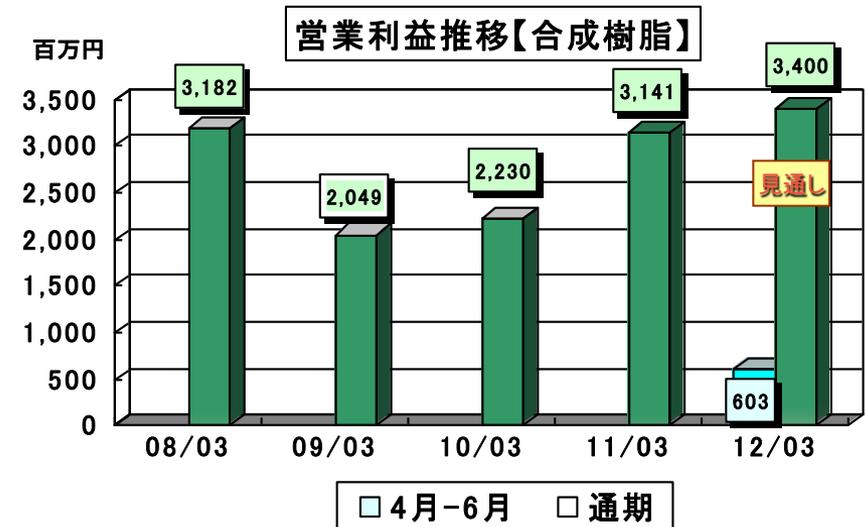
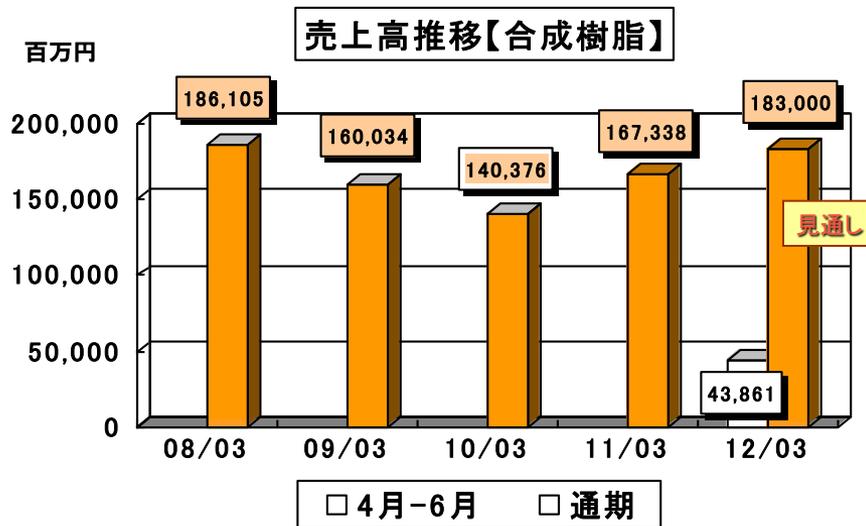


'12年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2012年3月期 第1四半期 主要事業の個別概況(合成樹脂)

売上高 対前年同期比 +6.5% 26億円増加

- 高機能樹脂は、震災による自動車メーカーの生産減の影響で、同分野向けの材料販売が国内向け、輸出ともに低迷
- 国内の汎用樹脂の販売は、ナフサ高を背景とした値上げによる仮需や震災の復興需要などから伸長
- フィルム、シート関連は、震災の影響による需要増で、食品、雑貨用途を中心に順調に推移
- 国内の関係会社では、樹脂価格上昇の影響を受ける中、原料価格の製品への転嫁等により、業績は堅調に推移
- 海外ではベトナム、インドネシアへの販売が伸長



'12年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

2012年3月期 第1四半期 地域別概況

東南アジア ⇒ 対前年同期比 +7.3% 13億円増

- ✓ シンガポールは、ベトナム、インドネシア、インドを含む新興国への輸出が大きく伸長
- ✓ インドネシアは、商社部門、製造部門とも売上が大きく伸長
- ✓ タイは、自動車、家電、OA機器などの輸出産業が好調

北東アジア ⇒ 対前年同期比 +7.6% 16億円増

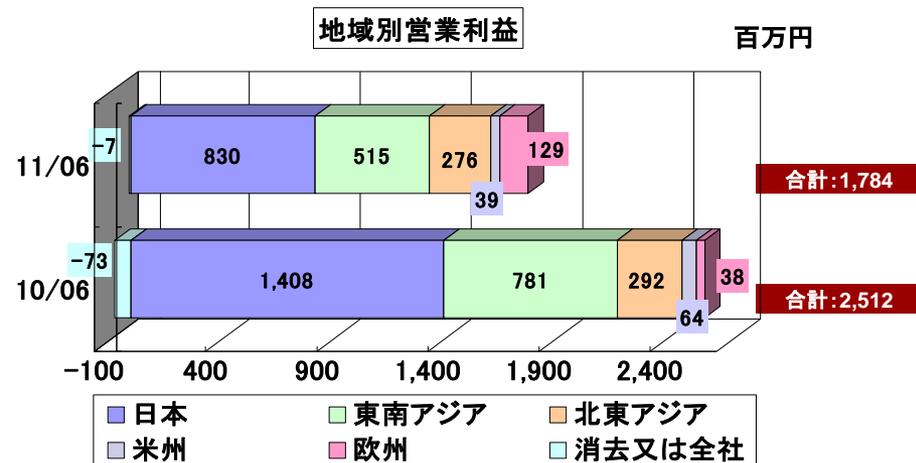
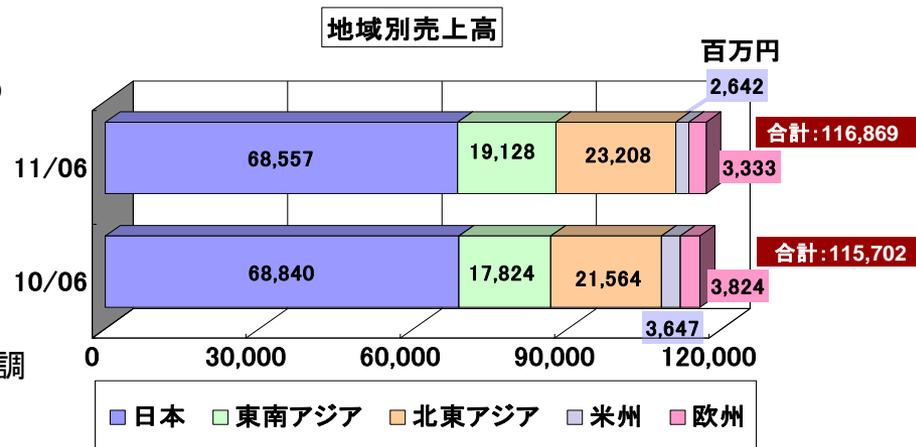
- ✓ 香港、華南では、家電製品、液晶テレビ関連、自動車関連等が堅調
- ✓ 華東では、合成樹脂、液晶関連を中心に伸長
- ✓ 華北では、OA、電子部品を中心に合成樹脂が伸長
- ✓ 台湾は、中国における液晶テレビの広がりにより、液晶関連が伸長

米州 ⇒ 対前年同期比 △27.6% 10億円減

- ✓ 情報電子関連は、顧客の生産量減少により、LCD関連が減少

欧州 ⇒ 対前年同期比 △12.8% 4億円減

- ✓ 欧州では、太陽電池関連・半導体関連が伸長
- ✓ ポーランドでの液晶パネル材料の販売が低調
- ✓ フランスではファインケミカルを中心に好調に推移



2012年3月期 第1四半期 連結子会社概況

- 日本ビーエフ(株)は、全保有株式を売却したことにより、第1四半期末で連結の範囲から除外

	連結子会社状況(内訳)		
	国内	海外	合計
連結子会社	11 (△1)	39	50 (△1)
持分法適用非連結子会社 及び持分法適用関連会社	6	6	12
合計	17 (△1)	45	62 (△1)

(参考) ()内数値は、対前期末比増減であります。

2012年3月期 連結業績予想(通期)

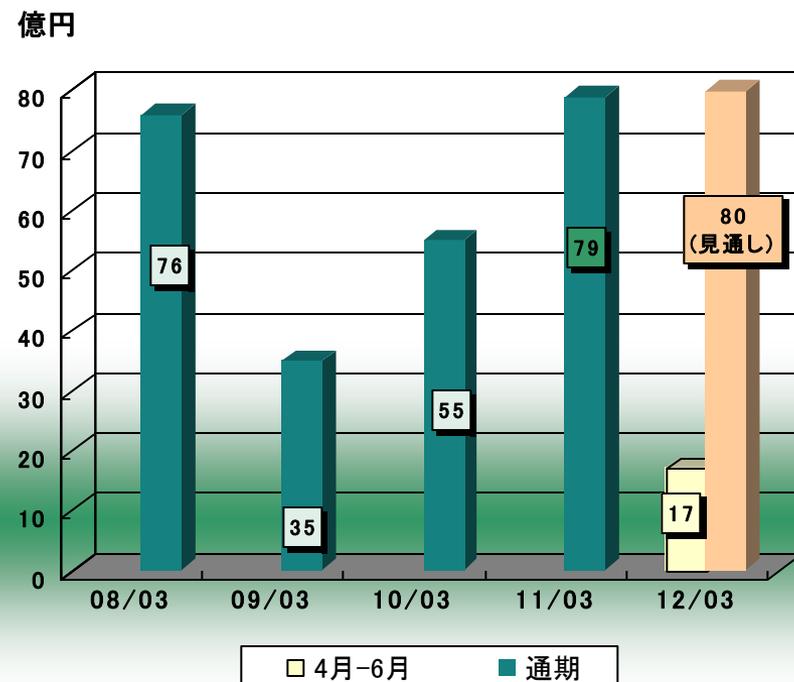
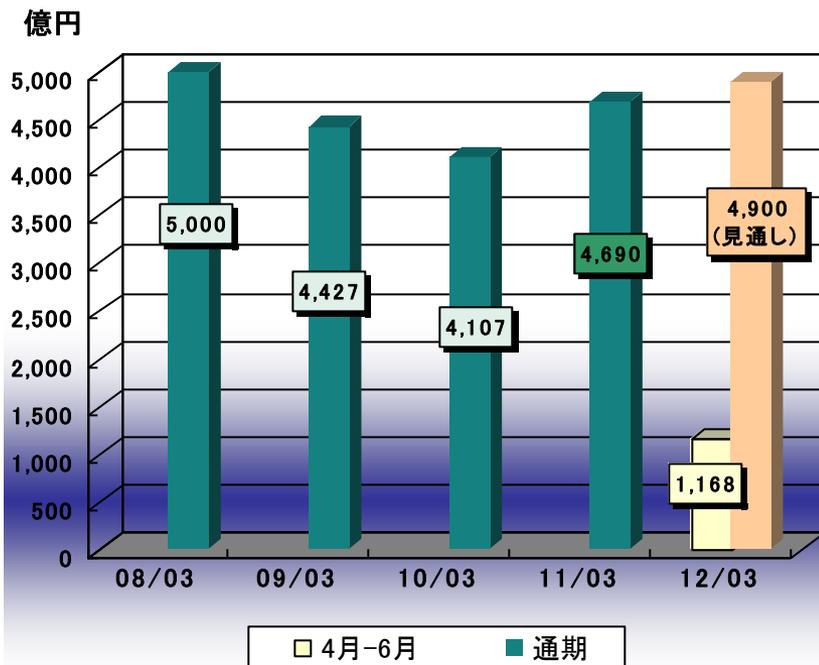
(単位:百万円)

	2012年3月期 第1四半期	達成率(%)	2012年3月期 通期見通し (5月11日公表)	2011年3月期 実績値	増減	増減比
売上高	116,869	23.9%	490,000	469,090	20,910	4.5%
営業利益	1,784	22.3%	8,000	7,900	100	1.3%
経常利益	2,009	25.1%	8,000	8,481	△ 481	△5.7%
四半期 (当期)純利益	1,274	26.5%	4,800	7,232	△ 2,432	△33.6%
1株当たり四半期 (当期)純利益 (円)	19.64	—	74.00	111.34	—	—

'12年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

売上高と営業利益の推移と見通し(08年3月期～12年3月期)

- 引き続き主力の情報電子、合成樹脂を中心に積極的かつグローバルな事業展開を推進



'12年3月期の数字はあくまで予想であり将来にわたり環境などの変化により数字は変動致します

株主への還元

(基本方針)

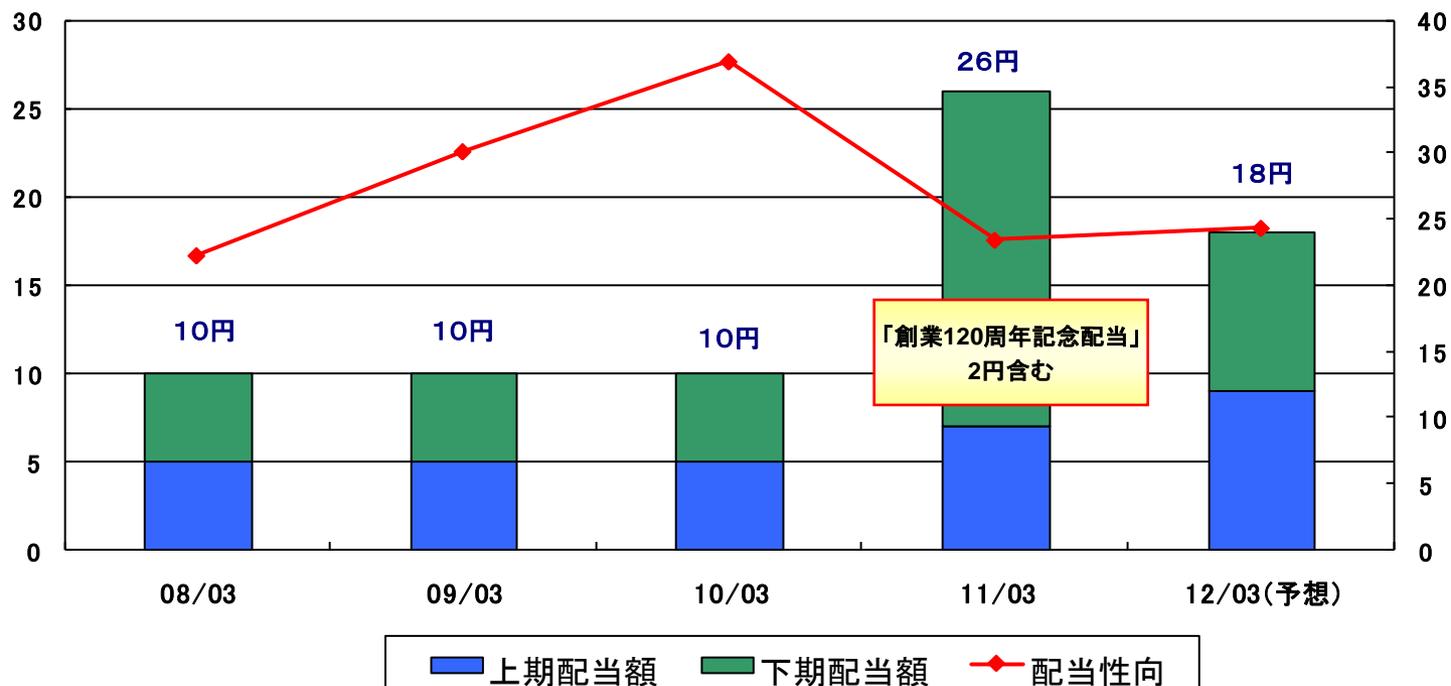
- 事業収益やキャッシュ・フローの状況などを勘案し、連結純利益の**20%~30%**程度を目安とし、今後の企業価値向上に向けての中長期的な投資などを考慮しつつ総合的な判断で決定。
- 利益水準に関わらず、原則として1株あたり最低限**年間10円**の配当金の維持に努める。

(2012年3月期)

- 配当金につきましては、1株当たり年間配当金18円(中間配当金9円、期末配当金9円)を予定。

配当額(円/株)

配当性向(%)



中期経営計画「IK2013」

《価値ある存在として常に進化を目指して》

2011-2013年度

中期経営計画の重点施策

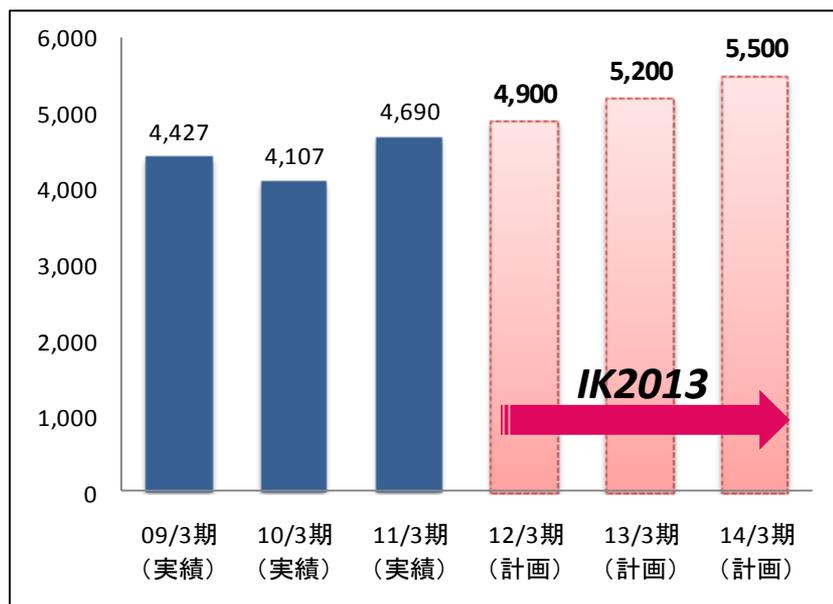
1. 伸びゆくアジア・中国地域への一層の経営資源の投入
2. 新興国市場への取り組みの拡大
3. 環境・エネルギー、ライフサイエンス事業の育成・強化
4. グローバル人材育成のスピードアップ
5. 厳選した投資を実施し、確実なリターンを得る
6. 資金効率と資産効率の追求

定量目標と経営指標

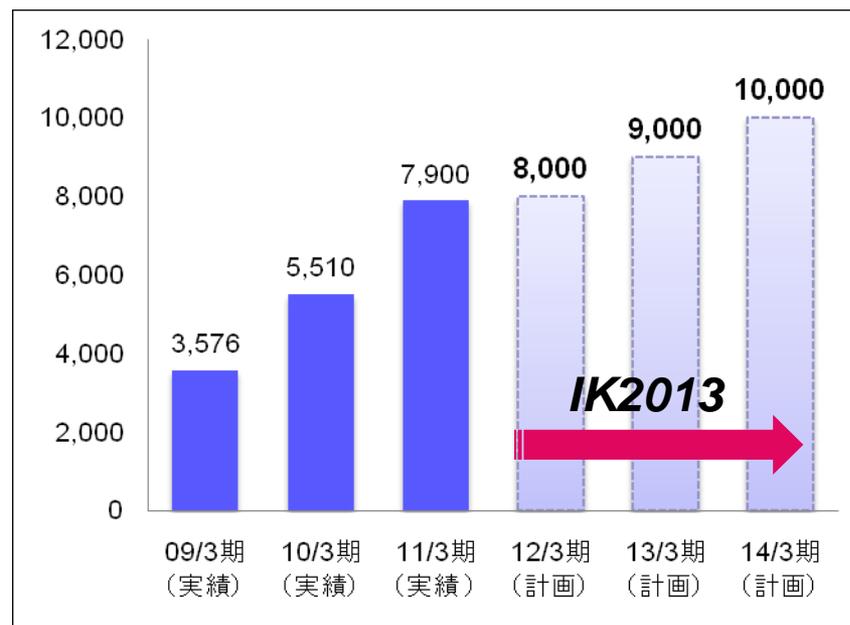
2014年3月期 定量目標と経営指標

連結売上高:	5,500億円	ROE:	7.4%
連結営業利益:	100億円	ROA:	2.2%
自己資本比率:	29.1%	ネットD/Eレシオ:	0.72倍以下 (注)

■ 売上高(億円)



■ 営業利益(百万円)



(注) ネットD/Eレシオ = (有利子負債 - 現預金) / 自己資本



人と人をつなぐ、あなたのベストパートナーでありたい。

稲畑産業は情報電子、化学品、合成樹脂、住環境、食品、といった事業分野で常に斬新なソリューションやサービスを追求しています。1890年の創業以来、高度な専門知識やノウハウに基づくビジネスプランニング、マーケティング、製造や物流を通し、幅広いニーズに応えるべく努力を続けてきました。今後とも皆様に信頼され、一層お役に立たせていただけるパートナーでありたいと願っています。

(注)

本資料に開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、様々な要因により変化する可能性があります。従いまして、これらの目標や予想の達成、及び将来の業績を保証するものではありません。